

静岡経済研究所 NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
静岡市葵区追手町 1-13
TEL 054-250-8750
FAX 054-250-8770

静岡県内主要産業の四半期見通し調査 (平成 28 年 4 ~ 6 月期)

個人消費の先行き不透明感強く、 産業景気回復は足踏み

～「住宅」以外の19業種が『横ばい』見通し～

新興国経済の景気減退や円高の進行などから輸出型製造業の業績が伸び悩む中、個人消費回復への期待感がやや弱まっている。加えて、4月14日に発生した熊本地方を中心とする地震により、県内メーカーの一部にも影響が出るとみられ、県内産業には懸念材料が広がっている。

なお、業種ごとの4～6月期の業界景気見通しは、「住宅」以外の19業種が『横ばい』。

『好調』はなく、『順調』が2業種、『普通』が7業種、『低調』が10業種、『不調』が1業種の見通し。

業種	調査項目	業界景気	
		現況 (1～3月)	見通し (4～6月)
製茶		● → ●	
食品・飲料		○ → ●	
家庭紙		○ → ●	
産業用紙		● → ●	
工作機械		○ → ●	
民生用電器部品		○ → ●	
自動車部品		● → ●	
二輪車部品		☂ → ☂	
建設		○ → ●	
住宅		● → ○	
大型小売店		● → ●	
食品スーパー		● → ●	
自動車販売		● → ●	
家電量販店		● → ●	
運輸・倉庫		● → ●	
情報サービス		○ → ○	
外食		○ → ●	
観光・レジャー		○ → ●	
リース		● → ●	
人材派遣		○ → ○	

担当：主席研究員 望月 毅
研究員 岩間 晴美

個人消費の先行き不透明感強く、産業景気回復は足踏み

新興国経済の景気減退や円高の進行などから輸出型製造業の業績が伸び悩む中、賃上げ機運についても昨年度、一昨年度と比べると勢いが鈍化し、個人消費回復への期待感もやや弱まっている。加えて、4月14日に発生した熊本地方を中心とする地震により、トヨタ自動車などが段階的に生産を停止する方針を打ち出したことで、県内メーカーの一部にも影響が出るとみられ、県内産業には懸念材料が広がっている。一方、来年の消費税率引上げを見据え、家電や住宅などでは堅調な動きもみられるが、先行き不透明感は増しており、県内産業の景気は、総じて横ばい状態が続いている。

(1) 業界景気の現況について

県内産業（主要20業種）の現在（平成28年1～3月期）の業況は、『好調』業種はなく、『順調』が「情報サービス」、「人材派遣」の2業種、『普通』が「食品・飲料」、「家庭紙」、「工作機械」、「民生用電器部品」、「建設」、「外食」、「観光・レジャー」の7業種、『低調』が「自動車部品」、「住宅」など10業種、『不調』が「二輪車部品」1業種となった。

前回（平成27年12月）調査との比較では、全20業種とも業況に変化はなかった。

(2) 業界景気の見通しについて

平成28年4～6月期の景気見通しは、主要20業種のうち、『やや上昇』が1業種、『横ばい』が19業種と、ほぼ足踏み見通しとなった。

『やや上昇』と見込まれるのは、ローン金利の低下を追い風に堅調な契約が見込まれる「住宅」1業種で、『低調』から『普通』に1ランク上昇の見通し。

『横ばい』19業種のうち、『順調』が続くと見られるのが、首都圏を中心にソフト開発案件の需要が堅調に推移すると予想される「情報サービス」と、新卒の採用難で人材需要が逼迫している「人材派遣」の2業種。

『普通』のまま『横ばい』と予想されるのは、販促強化で順調なツナ缶を中心に需要が底堅い「食品・飲料」、高付加価値製品の市場拡大に期待がかかる「家庭紙」、内需が底堅い「工作機械」、白物家電の需要期を迎える「民生用電器部品」、景気対策で前倒し発注が見込まれる「建設」、新陳代謝の動きが活発化している「外食」、新施設開業、新東名延伸効果でゴールデンウイークの集客が伸びそうな「観光・レジャー」の7業種。

一方、『低調』のまま『横ばい』が続くのは、新茶シーズンを迎えながらも贈答需要が低調な「製茶」、在庫削減が進まない「産業用紙」、工場爆発事故や熊本地震の影響で完成車の減産が見込まれる「自動車部品」、「自動車販売」、雇用・所得環境の改善から売上増加に期待がかかるも勢いが弱い「大型小売店」、「食品スーパー」、「家電量販店」、運賃引き下げ要請が増えている「運輸・倉庫」、製造業を中心に設備投資が伸び悩んでいる「リース」の9業種。

『不調』のまま『横ばい』を見込むのは、主力の中・大型車の輸出が伸び悩む中、熊本地震の影響を受けそうな「二輪車部品」1業種の見通し。

静岡県内産業の四半期ごとの業界景気の『現況』と『見通し』推移

年 次		平成25年			平成26年				平成27年				平成28年
四 半 期		II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I (今回調査)
対象月(○は調査月)		4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③
業界景気の『現況』	好調 ☀	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0
	順調 ○	1	2	4	5	1	1	2	1	2	3	2	2
	普通 ◐	1	3	6	7	5	5	4	4	3	5	7	7
	低調 ☁	17	14	9	6	13	13	13	13	13	11	10	10
	不調 ☂	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	全業種の平均階級値	2.10	2.30	2.65	2.95	2.30	2.30	2.35	2.40	2.45	2.50	2.50	2.50
	好調：5												
	順調：4												
	普通：3												
	低調：2												
不調：1													
業界景気の『見通し』	上昇 ↗	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	やや上昇 ↗	2	2	5	0	1	2	0	2	2	0	0	1
	横ばい →	17	17	15	12	19	18	20	18	18	20	20	19
	やや下降 ↘	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	下降 ↘	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点（3月調査であれば1～3月期）における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期（3月調査であれば4～6月期）の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。
 調査時点…平成28年3月初旬
 回答企業…県内主要20業種（137社）

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、半期調査業種を除く20業種の平均値。

平成 28 年 4 ～ 6 月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調査項目 業種	業界景気		静岡県内主要産業の見通し									
	現況 (1～3月)	見通し (4～6月)	生産量 (前1～3月期 対比伸び率)	売上高 (前1～3月期 対比伸び率)	生産量 (前年 同期比 率)	売上高 (前年 同期比 率)	操 業 度	需給 バ ラ ン ス	製品 在 庫 水 準	原 材 料 価 格 の 動 向 (前1～3月期 対比)	製 品 価 格 の 動 向 (前1～3月期 対比)	受 注 残 (ヵ月)
製茶	☁ → ☁	☁	—	—	—	→	○	供給超過	過多	→	→	—
食品・飲料	○ → ○	○	↗	↗	→	→	○	均衡	適正	↗	→	0.5～1.0
家庭紙	○ → ○	○	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	0.1～1.0
産業用紙	☁ → ☁	☁	→	→	→	→	○	均衡	過多	→	→	0.1～1.0
工作機械	○ → ○	○	→	→	↘	↘	○	均衡	適正	→	→	1.5～7.0
民生用電器部品	○ → ○	○	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	0.3～3.0
自動車部品	☁ → ☁	☁	↘	↘	↗	↗	○	均衡	適正	→	→	0.1～3.0
二輪車部品	☂ → ☂	☂	↘	↘	↗	↗	◇	均衡	適正	→	→	0.5～3.0
建設	○ → ○	○	—	↘	—	↗	◎	均衡	適正	→	→	3.0～9.0
住宅	☁ ↗ ○	○	—	→	—	↗	○	供給超過	適正	→	→	1.0～6.0
大型小売店	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	—	供給超過	適正	→	→	—
食品スーパー	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	—	供給超過	適正	→	→	—
自動車販売	☁ → ☁	☁	—	↘	—	↗	—	供給超過	適正	→	→	—
家電量販店	☁ → ☁	☁	—	→	—	↗	—	供給超過	適正	→	→	—
運輸・倉庫	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	○	均衡	—	→	→	—
情報サービス	○ → ○	○	—	↗	—	↗	◎	需要超過	—	→	→	—
外食	○ → ○	○	—	↗	—	→	—	均衡	—	↗	→	—
観光・レジャー	○ → ○	○	—	↗	—	→	—	供給超過	—	→	→	—
リース	☁ → ☁	☁	—	→	—	↗	—	—	—	—	—	—
人材派遣	○ → ○	○	—	→	—	↗	○	需要超過	—	→	→	—

表の見方と注意

業界景気 の現況 見通し	業界景気 の見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操業度	需給バランス	製品在庫水準
好調 ☀	上昇 ↗	非常に増加・上昇 (+10%以上) ↗	100～90% ◎	非常に需要超過	非常に過少
順調 ○	やや上昇 ↗	増加・上昇 (+3～+9%) ↗	89～80% ○	需要超過	過少
普通 ●	横ばい →	横ばい → (+2～△2%) →	79～70% ◇	均衡	適正
低調 ☁	やや下降 ↘	減少・下降 (△3～△9%) ↘	69～60% ⊙	供給超過	過多
不調 ☂	下降 ↘	非常に減少・下降 (△10%以下) ↘	59%以下 ●	非常に供給超過	非常に過多

主要業種の現況と4～6月期の景況見通し

業種	業界天気	一部製茶問屋は優良生産者の囲い込みを進める
製茶	☁ → ☁	<p>(現況)・1～3月の製茶問屋の売上は前年水準程度となった模様。年末年始に暖かい日が続いたため消費低迷が懸念されたが、それ以降は気温の下がる日も増えて消費は回復、贈答需要が依然として冴えない中、売上は前年並みを確保した。</p> <p>(見通し)・4～6月の売上は、前年並みで推移する見込み。贈答品の低迷が続く中、新茶期の販促で需要拡大に期待がかかる。なお、一部の製茶問屋は優良な生産者の囲い込みを進めており、市場などを經由して仕入れる場合は良品だけを選択して購入するため、昨年同様の慎重姿勢に終始しそう。</p>

業種	業界天気	ツナ缶生産量は前年を確保するも、魚価の上昇に警戒
食品・飲料	○ → ○	<p>(現況)・1～3月の県内の食料缶生産量は、前年をやや上回った模様。主力のツナ缶は、テレビCMと連動した店頭での販売強化などが奏功し、前年水準を+5%程度上回った。飲料缶は、暖冬など不安定な気候変動により、前年を下回った。</p> <p>(見通し)・4～6月の県内の食料缶生産量は、前年並みに推移する見通し。主力のツナ缶は、販促などにより好調だった前年並みを確保するとみられる。しかし、横ばいに推移していた魚価が上昇基調にあり、採算面の悪化が懸念される。飲料缶は、茶系飲料を中心に低水準だった前年を上回る見込み。</p>

業種	業界天気	トイレ紙は高付加価値製品の市場拡大に期待
家庭紙	○ → ○	<p>(現況)・1～3月の家庭紙の生産量は、前年をやや上回った模様。再生トイレ紙は前年をやや上回ったとみられる。価格面は、大型の販促企画が少なくなり、適正な水準を維持。ティッシュも生産量は前年をやや上回ったが、価格は伸び悩んだ。</p> <p>(見通し)・4～6月の家庭紙生産量は、ほぼ前年並みとなる見通し。再生トイレ紙の生産量は、前年水準を確保しそう。選択肢が増えてきた高付加価値製品のさらなる市場拡大に期待。ティッシュは在庫がやや絞れており、平年と比べて低水準であった前年の生産量を上回る見通し。</p>

業種	業界天気	段ボール原紙は在庫増加も、製品価格には影響なし
産業用紙	☁ → ☁	<p>(現況)・産業用紙の生産量は前年並み。段ボール原紙の生産量は前年比微増。主力の加工食品向けや通販向けなどが好調。在庫を積み増す動きもみられた。白板紙は、前年比微減とみられる。包装簡素化の影響を受け、低迷が長期化している。</p> <p>(見通し)・県内の段ボール原紙の生産量は、前年並みとなる見通し。足元で在庫が増加しているが、段ボールメーカーが当用買いに徹していること、製品の多品種化・小ロット化が進んだこと、大手原紙メーカーが5月に県外で大型休転を予定していることから、製品価格には影響しない見通し。</p>

○好調 ○順調 ●普通 ☁低調 ☂不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

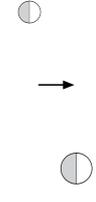
業種	業界天気	外需の低迷を内需が支える構図続く
工作機械	○ → ●	(現況)・全国および県内の受注額は、前年を▲20%程度下回って推移した模様。需要の60%を占める外需はアジア向けや欧米向けが不振で前年を▲20%程度下回ったとみられる。一方、内需は前年を若干下回って推移した。 (見通し)・全国および県内の受注額は、ともに前年比▲10%以上下回るとみられる。外需は、メインの中国や東南アジアで力強さなく、前年比▲20%ほど下回る見込み。内需は、補助金に期待。受注額減少は続くものの、一定水準を維持しており、後退懸念は薄い。

業種	業界天気	消費税率引上げの駆け込み需要で出荷額は前年を上回る見通し
民生用電器部品	○ → ●	(現況)・家庭用エアコンの出荷台数は、暖冬の影響から伸び悩むものの、来年の消費税率引上げを見据え、夏に向けて例年より生産の前倒しの動きがみられたことから、前年並みとなった。一方、冷蔵庫は、大型が人気で前年を上回った。 (見通し)・家庭用エアコンの出荷台数は、夏場の需要期を迎える上に、駆け込み需要を見込んだ増産が本格化し、前年を大きく上回る見通し。冷蔵庫、洗濯機とも依然として高額品の人気が続く見通しで、部品メーカーの受注量は前年を上回る見込み。

業種	業界天気	前期減産分を補うため、国内生産は前年をやや上回る見通し
自動車部品	● → ●	(現況)・国内の自動車生産台数は、前年を▲1割弱下回った模様。系列の部品メーカーで爆発事故があったトヨタで、2月に6日間の生産停止を実施した影響が響いた。部品メーカーの出荷高も、前年を下回って推移したとみられる。 (見通し)・国内の自動車生産台数は、前年をやや上回って推移する見通し。トヨタでは、前期減産となった約9万台分について、生産の遅れを取り戻す計画を立てているほか、北米向けが堅調な輸出も前年実績を上回る見通し。部品メーカーの受注量も、前年をやや上回って推移する見込み。

業種	業界天気	現地生産化の進展に伴い、国内生産は前年をやや下回る
二輪車部品	☂ → ☂	(現況)・1～3月の全国完成車生産台数は、完成車メーカーの一部で原付バイクの生産を海外から国内に切り替えたことから、前年を+1割以上上回った模様。県内部品メーカーの生産量は、前年をやや下回って推移したとみられる。 (見通し)・4～6月の全国完成車生産台数は、前年をやや上回って推移する見通し。原付バイクの国内生産移転で台数は上積みされるものの、主力である中・大型車の現地生産化の流れは変わらず、輸出は伸び悩むとみられる。県内部品メーカーの生産量は、前年をやや下回って推移する見込み。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ● 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	公共は前倒し発注で堅調見込、民間は小規模にとどまりそう
建設		<p>(現況)・公共工事契約額は、前年を下回った模様。昨夏から秋にかけて大規模な発注が集中したため、年度末の伸びは限定的だった。民間の工事費予定額は、製造業で大規模な研究開発施設の着工が相次ぎ、前年を上回った模様。</p> <p>(見通し)・公共工事契約額は、前年を上回る見込み。県や市町における当初予算の投資的経費は前年をやや割り込む水準だが、景気対策で前倒し発注の要請が強まるとみられる。民間の工事費予定額は、宿泊施設などの着工が予定されているが小規模にとどまり、前年を下回る見通し。</p>

業種	業界天気	マイナス金利政策が追い風となり、住宅取得意欲が改善
住宅		<p>(現況)・新設住宅着工戸数は、前年をやや下回った模様。貸家が盛り返した一方で、持家や分譲は伸び悩んだ。ただし、マイナス金利政策の導入後、住宅展示場への来場者数は増加しており、消費者の住宅取得意欲は高まっている。</p> <p>(見通し)・新設住宅着工戸数は、前年をやや上回る見通し。消費税率引上げの見通しは不透明ながらも、持家はローン金利の低さを追い風に堅調な推移が見込まれる。貸家は、相続対策の需要が底堅いものの、前年水準には及ばない見通し。分譲も、大型マンション着工の反動で前年を下回るとみられる。</p>

業種	業界天気	個人消費の緩やかな回復に伴い、前年実績を確保する見通し
大型小売店		<p>(現況)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年並みで推移した模様。百貨店は、暖冬で冬物衣料品が不振だったものの、化粧品や宝飾品などが下支えし、前年並みで推移した。スーパーは、主力の飲食料品の販売が堅調で、前年水準を確保した。</p> <p>(見通し)・県内大型小売店の既存店売上高は、雇用・所得環境の緩やかな改善を受けて、前年実績を確保する見通し。百貨店は、化粧品や宝飾品などを中心に、前年並みで推移する見込み。総合スーパーは、飲食料品が底堅く推移するとみられるほか、住関連品も増加が見込まれ、前年をやや上回る見通し。</p>

業種	業界天気	相場高の牛肉などが底上げし、前年をやや上回る見通し
食品スーパー		<p>(現況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや上回った模様。ブリの歴史的な不漁などで水産品がやや振るわなかったものの、相場高の果物類や、1月後半に寒い日が続いたことから野菜などの販売が伸長した。</p> <p>(見通し)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、雇用・所得環境の緩やかな改善を背景に、前年実績をやや上回る見通し。主力の野菜や果物類の価格が堅調なことに加えて、相場高が続く牛肉などが販売額を底上げし、前年水準をやや上回るとみられる。</p>

○好調 ○順調 ●普通 ●低調 ☂不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	登録車は好調を維持、軽自動車は低迷が続く
自動車販売	☁ → ☁	<p>(現況)・県内の乗用車販売台数は、前年を▲5%程度下回った模様。登録車が新型ハイブリッド車を中心に受注を積み上げ好調を維持する一方で、軽自動車は長引く増税の影響に加えてモデルチェンジなどのプラス要因にも恵まれず低調だった。</p> <p>(見通し)・県内の乗用車販売台数は、前年をやや上回る見通し。登録車は、引き続き新型車の販売が堅調に推移するとみられるほか、各メーカーで投入予定の人気車種の一部改良モデルが需要を底上げする見込み。軽自動車は、販売に底打ちの心配がみられず、低迷が続くそう。</p>

業種	業界天気	4Kテレビや調理家電などの販売増で、前年をやや上回る
家電量販店	☁ → ☁	<p>(現況)・薄型テレビの販売額は、前年のデジアナ変換サービス終了に伴う買い替え需要の反動で、前年実績を▲2割前後下回った。一方、冷蔵庫や洗濯機などの生活家電は堅調で、家電販売額全体では前年を+1割弱上回った模様。</p> <p>(見通し)・薄型テレビの販売額は、4Kテレビの価格低下で買い替え需要が増加しており、前年をやや上回って推移する見通し。また、掃除機や調理家電なども、高機能製品が支持を集め、前年実績を上回る見込み。これに伴い、家電販売額全体では前年をやや上回るとみられる。</p>

業種	業界天気	トラック輸送量は横ばい推移、倉庫も前年水準を確保
運輸・倉庫	☁ → ☁	<p>(現況)・トラック輸送量は、食料品は堅調に推移したが、輸送機械が伸び悩み、全体では前年比横ばいとなった模様。普通倉庫の入出庫高は、鉄鋼や電気機械などの荷動きが堅調で、前年水準をやや上回って推移したとみられる。</p> <p>(見通し)・トラック輸送量は、業種によりばらつきはあるものの、総じて前年比横ばいで推移すると見込まれる。輸送量が伸び悩む中で運賃値下げの要請が増えるなど、厳しい経営環境が続くそう。普通倉庫の入出庫高は、主力の電気機械や食品関連の荷動きに期待がかかり、前年水準は確保できる見通し。</p>

業種	業界天気	ソフト開発などが堅調に推移し、繁忙が続く見通し
情報サービス	○ → ○	<p>(現況)・1～3月の全国の売上高は、主力のソフト開発が好調に推移したことなどから、前年をやや上回った模様。県内も、首都圏からの受託案件が相次いだほか、流通システム関連の案件も好調だったことなどから、前年をやや上回った模様。</p> <p>(見通し)・4～6月の全国の売上高は、前年をやや上回る見通し。ソフト開発が堅調に推移する見込みで、首都圏を中心に大型案件の需要が高まると予想される。県内でも、首都圏から多くの案件を見込み、繁忙が続く見通し。ただし、SE不足が深刻化し、案件があっても受けられないケースも想定される。</p>

○好調 ○順調 ●普通 ☁低調 ☂不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	外食意欲は高いものの、客単価の低下が心配
外食	●	(現況)・主要外食店の売上高は、前年をやや上回った。うるう年で前年より営業日が1日多かったことや、販促チラシなどによる需要喚起が奏功した。一方で、開業1～2年目の閉店も散見され、依然としてスクラップ&ビルドが続いている。
	→	(見通し)・主要外食店の売上高は、前年並みで推移する見込み。外食機会を増やすほどの可処分所得の増加は見込めず、大きな変化はない模様。外食意欲は高いものの、前期から低価格商品や割引クーポンの対象商品が活発に動き始めているとの指摘もあり、客単価の低下が危惧される。

業種	業界天気	三島スカイウォークと浜名湖花フェスタがけん引
観光・レジャー	●	(現況)・県内主要旅館の総売上高は、前年をやや上回る見込み。三島スカイウォークの開業効果で、宿泊客・日帰り客ともに増加した模様。春節期間中の外国人観光客は、富士山静岡空港の利用の伸びが鈍く、期待をやや下回った。
	→	(見通し)・県内主要旅館の総売上高は、前年を上回る模様。三島スカイウォーク開業効果は伊豆半島に、新東名の西進効果と浜名湖花フェスタは県西部にプラス効果を与える見込み。北海道新幹線開通の影響は、北陸新幹線開通時よりも軽微なものにとどまるとみられ、大幅な客数減少はない見通し。

業種	業界天気	前年を上回るも、補助金の効果は限定的
リース	☁	(現況)・県内のリース件数・契約高は、前年実績をやや上回って推移した模様。海外への設備投資は大きく減少しており、国内も更新需要はあるものの投資マインドが低く、伸びは限定的だった。レート競争も激しく、収益面は厳しい状況が続いた。
	→	(見通し)・県内のリース件数・契約高は、前年をやや上回る見込み。大企業は更新需要を中心に底堅く推移するとみられる。一方、中小企業は業績の回復が進まず、動きは鈍い見通し。設備投資に関する補助金が平成27年度補正予算で採択されたが、前年よりも手続きが煩雑で大きくは伸びないとみられる。

業種	業界天気	新卒の採用難がさらに需要を増加させる可能性も
人材派遣	○	(現況)・1～3月の県内の実働派遣労働者数は、前年を+2～3%程度上回った模様。営業・販売業務や事務系業務の需要は高かったが、有効求人倍率の上昇に伴い正社員希望者が増加するなど、供給側の人手不足は解消せず伸び悩んだとみられる。
	→	(見通し)・4～6月の県内の実働派遣労働者数は、前年をやや上回って推移する見通し。今後も、IT、介護などの分野で高い需要が見込まれるものの、供給サイドでは、人材確保において困難が続き、人材需給は逼迫した状況が継続する見通し。新卒市場の採用難がさらなる需要増加につながる可能性もある。

○好調 ○順調 ●普通 ☁低調 ☂不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期